

**オムロン株式会社 2018年度 1Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答（サマリー）
（2018年7月26日、東京）**

<全社業績、経営・戦略>

Q：米中貿易摩擦による不透明感が増しているが、具体的に影響が出始めているのか？

A：具体的にはまだ明確な影響は出てきていない。ただし景気が悪くなると、設備投資にまずブレーキが踏まれるので、注意深く見ている。

Q：通期の付加価値額増加予想の+292億を踏まえると、1Qの付加価値増加額+42億は、進捗が悪いように見えるが想定どおりなのか？

A：想定どおり進捗している。1Qは、季節性要因によって社会システム事業の業績がマイナスになることを考慮する必要がある。また売上増加や付加価値率改善の効果も、例年2Q以降に増えていく傾向にある。

Q：販管費、研究開発費の増加分を固定費的なものと先行投資的なものに分けると、どんな割合になるか？今後、景気が悪化した時にどのようにブレーキを踏むのか？

A：明確に分けて説明するのは難しい。フロント人財強化など固定費的なものが約半分ぐらいのイメージ。主に制御機器事業やヘルスケア事業で増やしている。もちろん景気が悪化することも想定して、コントロールする幅を持って経営している。

<制御機器事業 関連>

Q：どのような取り組みによって付加価値を向上させているのか？

A：付加価値の高い商品を中心にソリューション型の営業を強化することで、単品でのコスト競争に巻き込まれないようにしている。また、新商品の開発や自社工場における設備の改善ノウハウを活かしたコストダウンなどで、継続的な付加価値の向上に努めている。

Q：半導体業界の需要が今後は右肩下がりになるという見方があるが、オムロンは楽観視、警戒モードどちらなのか？

A：楽観視はしておらず、アンテナをしっかりとてて動向を注視している。

<ヘルスケア事業 関連>

Q：1Qは営業利益率が高かったが、これは巡航速度という理解でよいのか？

A：巡航速度で進捗している。血圧計を中心に付加価値の高い商品の販売拡大によって、定常的な売価ダウンの影響を最小限にとどめている。